

上宮津公民館だより

第65号
平成28年
7月20日

絆から繋がりへ

公民館長 智原芳明

私が公民館長にお世話になつて七年が経過しました。

就任当初は公民館の周囲は上宮津小学校や保育所があり、教育と文化の中心的地域でありました。園児や児童の弾けるような元気な声や、体育の授業の時などは笛や音楽がよく聞こえました。

また、地域行事をするときも運動会、敬老会、盆踊り、駅伝、農業文化祭などそれぞれの施設を使って実施をしてきたところです。しかし、そんな小学校も昨年をもって閉校となり、今では「学びの郷」と書かれた石碑だけが校

庭の傍らに懐かしく思い出を留めています。

当初、閉校後は「地元で使える施設は利用する」との方向が示されていた中で、体育館、運動場、ホンモロコの養殖をしているプールのほか家庭科室を災害時の避難所として使っていました。更に公民館の移転も視野に入れて検討されていたところでした。

そんな状況の中で、去る五月二十日に上宮津小学校跡地活用対策委員会がもたれ、上宮津地区における産業振興について市長以下関係部課長から提案がありました。

その中で「上宮津地区公民館は、必要なところは手を加

えて修理して使用し、現在の場所からの移設はない。」とした上で、「上小の跡地は企業に誘致したい」とする意向が示されました。

小学校の跡地は地域の「絆」的存在であり続けると思っていた住民にとつては予想外ともとれる提案でありました。

それから二週間後に上小の校地清掃がありました。

地元住民に加えて日頃から学校施設を使用している団体など多くの人が清掃活動に参加され、運動場も人で埋め尽くされたようで久しぶりに華やいていました。まるで過去の小学校に蘇ったかのように見えました。

清掃作業を終えてすっかりきれいになった運動場でしたが、わずか一年余りという短

期間の空白が、校舎や校庭を荒廃させてしまうのかと佇んでしまいました。

特にグラウンドの周りなどは身の丈ほどの草木が生え茂り、足を踏み入れることさえためらってしまう有り様でした。

『国破れて山河在り、

城春にして草木深し』

『夏草や兵どもが夢のあと』

なぜか若いころ聞いた詩歌が思いだされた。

『未だ覚めず池塘春草の夢

階前の梧葉すでに秋風』

閉校後の一年余りの歳月は私たちに、地域は「絆」から「繋がり」への転換期が到来していることを感じさせているようでありました。

これからが上宮津地区再生の

正念場若い力を呼び込もう

上宮津自治連合会長 細見 節夫

今年三月三十一日現在の上宮津の人口は一一四一名です。私が公民館長に就任した平成十七年の人口は一四五三名でしたので十一年間で三百十二名減少しました。これは喜多自治会や鳥ヶ尾自治会の全住民の数に匹敵します。高齢化率は四十四%までのぼり、数年後には人口が千人を切り二人に一人は六十五歳以上の超高齢化社会になります。

自分の家庭や上宮津の将来に希望や夢が持てずになるようにしかならない、考えてもどうしようもないと思ってる人は少なくないと思います。人口が減少して地方が衰退し近い将来市町が消滅していくことが現実化していくわが国の現状は、人間の体にとえれば頭脳が東京に一極集中し、

手足は動脈硬化で機能不全に陥り病態が深刻化する状況にあるといえます。この状態はわが国社会が健全に発展していくこととはまったく逆の方向に歩んでいるといえます。政府が地方創生に取り組みことは当然のこととしても今日では遅きに失しています。

私達上宮津地区は平成十四年に新たな振興計画を策定し上宮津二十一夢会議を発足させ、地域おこしの取り組みを進めてきました。二十二年には地域づくりの推進体制をさらに強化する目的で上宮津地域会議を立ち上げ、二〇一三年から二〇二二年度までの地域起こしの計画である上宮津二〇二二年ビジョンを策定しました。そして国や府・市の交付金支援も受けながら地域を挙げて多方面の地域おこしの運動を展開してきました。多くの先進地視察や研修活動、マイ防災マップマイ防災プラン・環境看板保全・メール放

送システム・森林古道保全・景観伐採・高齢者見守り活動・サロンドカミヤツの立ち上げ・ワサビ栽培・モロコ栽培・地域活性化の閉校行事・学校跡地活用・内外に情報発信するホームページの開設等々新しい時代に対応するための取り組みを展開してきました。

しかし地域活性化の取り組みの効果は目に見えるものはまだありません。

若い人が増えない限りいろいろな地域起こしの取り組みもいずれ消滅します。

地域会議は自治会を中心に昔からの地縁の組織で構成されています。夢会議は上宮津を元気にしたいと志す地区内外の個人会員で構成しています。中には大学の先生や他地区のリーダーも参加していただいています。

私は、上宮津の活性化の推進体制は地域会議と夢会議が車の両輪として動いていくべ

きと考えており、その原動力としてユーターン、アイターン、そして滞在型観光客などの外の若い力が不可欠と考えています。

上宮津地域の再生は決して不可能ではなくみんなの努力で必ず再生できます。私たちはその力を持っています。

上宮津地区は丹後の玄関口で地理的条件に恵まれていません。そして雄大な大山山・杉山・城山等の自然と森林・観光資源、大手川を流れる良質豊富な水資源とその水による米や花野菜などの農産物などのハード的な地域資源が豊富にあります。加えて上宮津地区特有の京都と丹後を結ぶ歴史街道村として長年にわたって情報知識が豊富に蓄えられ他に先駆けていち早くオフトーク有線放送を開始した様にいつも時代を先取りするフロンティア精神で地域が動いてきたソフトの地域資源がしっかりと根付いていると考えて

います。

私たちは上宮津地区を誇りに思い、自信を持って豊富な地域資源とマネージメント力とコミュニケーションを活用していけば必ず将来的に健全に発展していけることをお互いに自覚しあう必要があります。

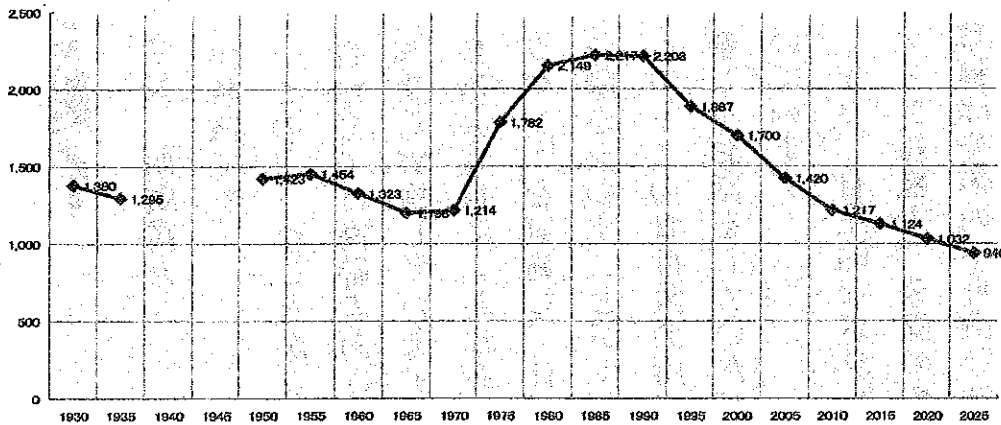
その上でわが故郷上宮津を自分たちの力で元気にしていくために地域住民一人ひとりが今何を考え行動すべきかを真剣に考えて欲しい。

近年の祭りや駅伝競走大会、盆踊り大会、運動会に参加者は増え続けています。この背景には交通アクセスやホームページもありますが底辺には人の流れが代わる時代の変化を人々は気づき始めているのではないかと感じています。

モロコ・ワサビ・ブドウ等の特産品開発、水力発電を含む水資源の多目的活用、城山開発、民泊、学校の新しい企業誘致など若者を呼び込む取り組みの正念場が近づいてい

ます。最後に新しい時代を新しい若い世代の強力なリーダーシップで引っ張ってもらいたいと願っています。

上宮津人口



新しく委員に就任して

関野掲司

昨年十月より人権擁護委員をお引受け致しました。

「人権相談」小学校での「人権の花運動」「人権週間」「男女共同参画週間」等の啓発活動等多岐に渡り八か月を経た今も暗中模索の毎日が続いています。

先輩委員の指導を受けながら任期三年の中で少しでもお役に立てるよう奮闘中です。

上宮津財産区管理会は上宮津地域の広大な森林を管理しています。七割以上は戦後の造林地ですが、昭和三十九年の関税撤廃等により林業低迷の状況が今も続いています。が、今年度より「豊かな森を守

る府民税」が導入され、また今年には全国育樹祭を中核とする「森の京都博」なるイベントが府内で始まっています。林業活性化の大きな機会になればと期待するところであります。

喜多城倶楽部は宮津農協の時代から五十年以上続く農協青年部という組織を引き継ぎ今に至っています。現在八十 a フェールの水田を耕作しています。

上宮津の農地は何処も綺麗に整備されていますが、此れからの農業従事者の減少により農地荒廃の不安は高まるばかりです。

この様に複数の役員を兼任し、ご迷惑をお掛けしますが関係者の皆様上宮津地域の皆様よろしくお願いいたします。

鳥が尾の紹介

鳥が尾自治会 会長 西廣富夫

四月から鳥が尾自治会

の会長をさせていただ

いています。任期は1年で

す。これまで自治会役員

として副会長、会計など

はさせていただきまし

が、会長は初めてですの

で、戸惑いながらやっ

ております。

鳥が尾自治会の世帯数

は140戸余りあります

が、一人世帯が四割、二

人世帯が四割、二人以上

の世帯が二割で、高齢者

の一人二人世帯が多いの

が特徴です。

このようなことから、

自治会では高齢者向けの

事業も実施しています。

自治会独自に「ふれあい

サロン」を実施し、日ご

ろ顔を会わすことが少な

い方もこの日は集会所で

楽しくお話をしていただ

いています。

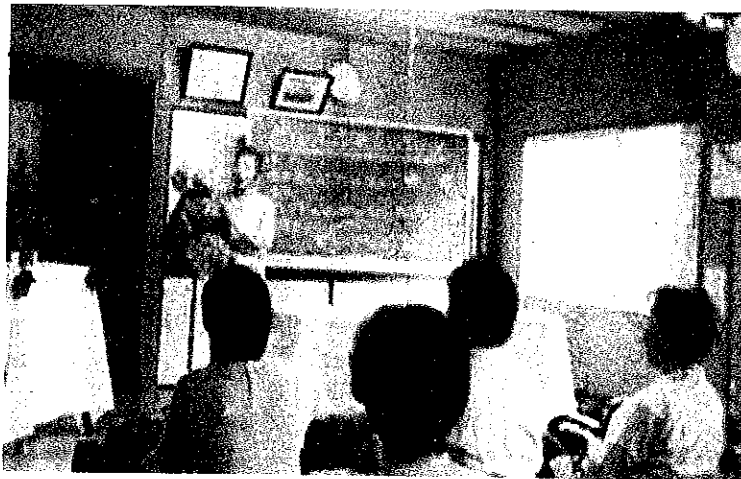
また、自主的なボラン

ティア組織で、公園の雑

草掃除や体の不自由な方

の庭の清掃をお手伝いす

るグループが最近誕生し、



今後の活躍が期待されま
す。(私もグループに入っ
ています。)自分達の住ん
でいる地域を快適にしよ
うという思いが生まれて
きたように思われます。

私個人の趣味としては、
一反の畑での野菜作り、
ハイキングクラブに所属
して登山(事務局をして
います。)などで、忙しく
しています。

自治会の事業も以前と
比べると多くなっており、
日々行事の準備に追われ
ています。

上宮津地区自治連合
会、鳥が尾自治会役員、
組長、会員の皆様のご
協力を頂きながら来年
三月まで頑張っていき
たいと思っています。

▲鳥が尾集会所での

ふれあいサロン

一歩外に

千歳会 会長 柴谷保生

このたび、会員皆様からの推薦により老人クラブ千歳会の大役を務めさせていただくことになりました。

会員皆様のご支援とご協力に支えられ、与えられた任期を全うできますように、皆様のお力添えをいただきながら精一杯努めてまいりたいと存じますのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

千歳会は、健康・友愛・奉仕の三大目標を掲げて活動をしている高齢者の団体クラブです。

住み慣れた地域でいつまでも元気に現役を維持できるよう生涯学習に努め、地域社会での交流の輪を広げ、仲間たちと互いに支えあいながら活動しています。

当クラブには社会奉仕・スポーツ



昨年度の健康づくり教室の様子

(認知症予防と寝たきりにならないための軽めの体操Ⅱ上宮津地区公民館で)

の会・旅行の会等々あります。自分に適した行事が選択できます。また外出する機会が多くなり、生活に張り合いが出ます。なんととっても仲間が多くできるので生きることが楽しくなります。

「案ずるより産むがやすし」のことわざどおり、飛び込んでみれば仲間はすぐに寄ってきます。自分のお近くに住むクラブ会員に声をかけてみてください。きつと親切に説明してくれるはずです。家の中から一歩外に出ることから新しい老後の人生が始まります。

今まで培ってきた経験、知識を生かしあい尊重しあいながら子供や孫に誇れる社会にバトンタッチができるような地域を築いていきませんか。

千歳会はそのような新しい仲間を待っています。

サロン・ド・カミヤツ

市社協上宮津支会

会長 杉田喜美代

サロン・ド・カミヤツを立ち上げてから四年目をむかえております。

ご存知のように、少子高齢化が急速に進む中、地域力再生を目的とした地域福祉の一環として開催されております。サロン・ド・カミヤツも一年一年大勢の参加者があり、コミュニケーションの場として定着してきております。そして十九名のスタッフの皆さんと、ボランティアの男性の方々の協力を頂きながら、六月、十二月、三月と年三回の開催をいたしております。

ただ男性の方の参加が少なく、これからの課題としなければならぬと思っております。

又、二十七年度において認知症予防としてオレンジカフェを取り入れ、



4月20日のオープンカフェ

(上宮津地区公民館で)

同時開催をしてきましたが、上宮津の地域を見ると各地区で開催することがより大勢の参加が得られるのでは？集まりやすいのではという思いから切り離し、二十八年度からは各地区へ出向いております。

又、今年度より、毎月二十日をオープンサロンの日として上宮津地区公民館で開いています。誰もが自由に入出入り出来、自由に過ごす場として、ある時はビデオを流し、おしゃべりをして軽い食事等、様々なことをしています。

参加いただいているみんな様はコミュニケーションの場、ストレス粉碎の場として大変なごやかな時が流れている様です。ただし、サロン・ド・カミヤツの開催月はお休みしますが、皆さん、是非、訪れてみてください。

一人一人の心の糧として、これから先も地域に根付いたサロンとして、長く位置づけられることを願っています。

総合優勝 小田千一ム

第 33 回上宮津地区駅伝競走大会

大会結果

自治会対抗の部

優勝 小田自治会チーム

35分48秒

準優勝 鳥が尾自治会チーム

38分08秒

第3位 喜多自治会チーム

39分10秒

自治会対抗フリーの部

松縄手自治会チーム

42分58秒

オープン参加の部

宮津小学校教職員

37分22秒



参加11チームが一斉にスタート

第33回上宮津地区駅伝競走大会は、入梅を前にした6月12日に開催されました。上宮津小学校をスタートし、鶴亀橋折り返しの地区内を縦走する7区間9・8キロで競われました。

開会式に宮津市教育長の藤本長壽様を来賓にお招きして挨拶を受けました。今大会は自治会対抗が5チームとオープン参加6チームの11チームが、上宮津地域で熱戦を繰り広げました。オープン参加では地元ドリムチームの他に、上宮津地域から通学する児童からなる『かみやぶキッズ』や、『宮小六年児童』『宮小教職員』チームが地元のチームとともに大会を盛り上げてくれました。

大会は7区間のうち6つの区間記録を出し終始安定した強さを発揮した小田千一ムが昨年の記録より1分14秒速いタイムで優勝しました。

当日は大会役員と選手の皆さまを合わせると160人の参加があり、普段静かな小学校のグラウンドが選手のエネルギート応援者の声援が飛び交う熱い一日でした。



金山在住のティムさん



松縄手チームアンカー

みんなの善意で

善光橋バス待合所が完成！

平成二十七年四月から上宮津地区の小学児童は、宮津小学校に通学することになりました。

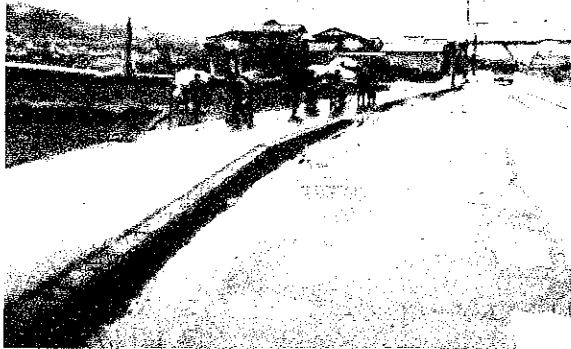
通学方法は柿が成と天神より南の地域の児童たちはバス通学となり昔の宮津街道を走る丹海の大形バスに乗って通学することになりました。

小学児童のバス通学で浮上した課題がバス待合所であり、雪や雨の中でバスを待つ児童および保護者から善光橋のバス停の新設が強く関係機関に要望されました。

こうした動きの中でバス会社の丹海と宮津高校の建築科の善意で待合所が建築される運びとなり、用地の地権者と上宮津自治連合会との土地使用貸借の契約の上で、農地転用・建築確認・道路占用許可などの諸手続きをすべて完了し、ようやく一年がかりで七

月十九日に待合所が運用開始するに至りました。

ここに至るまでには克服すべき課題も多くありましたが、丹後海陸交通株式会社、宮津高校建築科、宮津小学校、京都府および宮津市ならびに地元建築士や施行業者の献身的な協力体制で地元民間人の手作りのバス待合所が完成したことをともに喜び合いたいと思えます。



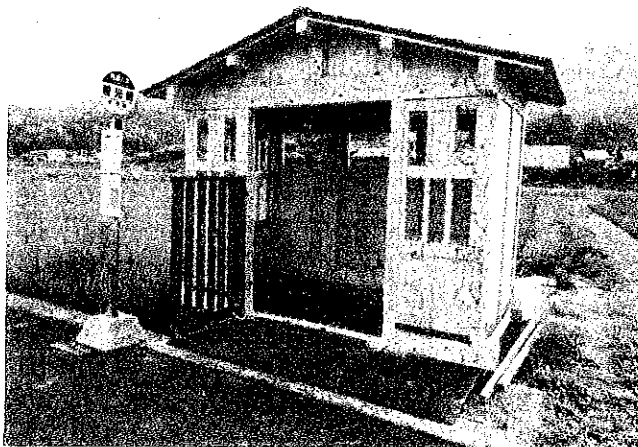
氷雨の中バスを待つ小学児童



2月24日児童もお手伝いしました。

とりわけ老朽化した大橋バス停の修繕や新しい地域活性化にも役立てたいと上宮津地区のホームページから情報も取り、小学児童にも建築の段階で参加の機会に配慮し、立派な善光橋待合所を作っていた。ただいた宮津高校の先生と生徒の皆さんに心から感謝を申し上げます。

上宮津地区としてはバス停の建設を上宮津地域自らの自主的な地域起こしの学習の機会であると位置づけて取りくんできました。用地の問題や行政機関の許可の手続きを含め多くのことを学びました。バス停は児童たちだけの待合所だけではなく宮津街道の往来の憩いの場所となつて多くの人に愛される場になることを祈っています。



7月14日 完成した善光橋バス停

お世話になります

平成 28 年度、新しく公民館運営審議会委員、公民館活動推進委員、青少年体験活動推進委員としてご協力頂きます。どうかよろしくお願ひします。

公民館運営審議会委員名簿

彦坂 好幸	小田自治会会長
細見 節夫	上宮津自治連合会会長 喜多自治会会長
奥野 利貞	今福自治会会長
椿原 篤夫	天神自治会会長
西廣 富夫	上宮津自治連合会副会長 鳥が尾自治会会長
大西 高広	松縄手自治会会長
関野 掲司	上宮津財産区管理会会長
岡 伸侍	合同会社大江山スキー観光代表
杉田喜美代	市社協上宮津支会長
橋本 陽子	上宮津保育所所長
酒井 勝明	民生児童委員常務
藤田 淳志	上宮津体育協会会長
松岡 照幸	宮津市スポーツ推進委員
粉川正太郎	上宮津 21 夢会議代表
荻野 貴弘	上宮津保育所保護者会会長
柴谷 保生	千歳会会長
福井 愿則	今福福寿会会長
粉川 紀子	上宮津自治連合会事務局
関野 掲司	喜多城倶楽部
智原 芳明	上宮津地区公民館館長
大西真由美	上宮津地区公民館主事

(平成 28 年 7 月現在)

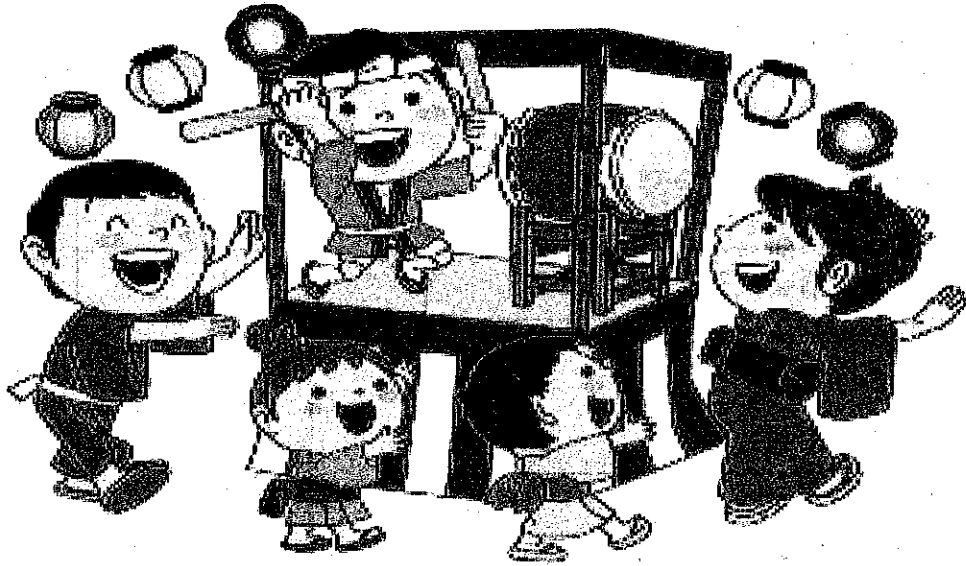
青少年体験活動推進委員

田中 了	小 田
細見 秀史	喜 多
井笹 立子	喜 多
福井 俊明	今 福
高奥 信也	天 神
斎藤 和子	天 神
藤田 誠	鳥が尾
松岡 照幸	松縄手

公民館活動推進委員

上家 春美	小 田
梅溪 康夫	喜 多
寺下 博文	喜 多
細見 重彰	喜 多
長林 三代	今 福
奥野 敦	今 福
岡本 剛	天 神
舟橋 照美	鳥が尾
斎藤 義憲	松縄手

上宮津地区盆踊り大会



みなさん、ご近所お誘いあわせの上 ご参加ください！！

平成28年8月14日(日)午後7時から

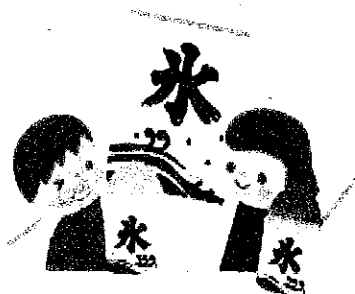
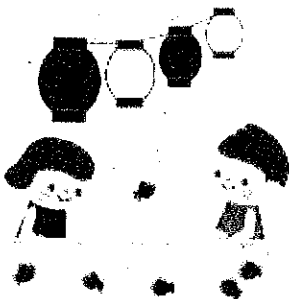
※抽選券の受付は午後8時30分に終了します

場所 上宮津保育所園庭
雨天時 旧上宮津小学校体育館

誰に何が
当たるか！

射的・サイコロ・運だめし・金魚すくい・お楽しみ抽選会

かき氷・フランクフルト・からあげポテト・焼き鳥・生ビール・ジュース 他



主催 上宮津地区盆踊り大会実行委員会